

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および5月18日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は開設以来、「都市型リハビリテーション病院」として、予防的・医療的リハビリテーションや生活期リハビリテーションを提供し、地域の健康・医療・福祉に貢献してきた。いち早く回復期リハビリテーション病棟を開設され、現在では全病棟を回復期リハビリテーション病棟として運営されている。また、広島県から地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受け、地域リハビリテーションへ貢献されている。

病院機能評価は継続的に受審されており、医療の質を高める活動に自律的に取り組まれている。今回の訪問審査においても、質の高いリハビリテーション・ケアを提供するための新しい工夫が随所に見られ、職員が日常的に高い意識を持ち、一丸となって業務改善に取り組まれてきた成果が確認できた。業務改善に対する病院長のリーダーシップとそれに応える職員の取り組みが積極的になされており、今後も継続して取り組まれるとともに、地域包括ケアシステムの核として貴院のさらなる発展を期待したい。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病棟運営方針は病院理念に沿ったものであり、内外にわかりやすく配信され、職員の帰属感や理解度を高めるような説明の工夫も秀でている。リハビリテーション・ケアを専門的に提供するための職員を、職種・人員数の基準を超えて専任・専従配置する体制があり高く評価できる。病棟の円滑なフロアマネジメントや病棟運営の整合性などを確保する組織体制が確立しており、運用の見直しも適切に行われている。患者の安全確保に向けた体制は適切に整備されている。多職種シミュレー

ション研修が実施され、患者の急変時に対応できる体制は適切に整備されている。患者の転倒・転落ならびに患者の離院・離棟に対して患者安全委員会で対策が検討され、安全な療養環境が整備されている。

電子カルテと連携した院内データベースが構築されており、業務改善に資するデータ活用やわかりやすい情報発信への取り組みは高く評価できる。病棟運営課題の抽出と対策立案を組織的・系統的に行う仕組みがあり、TQC 活動から汎化して業務改善に取り組んだ例も多くある。研修計画は法人教育部門で策定され、e-learning の活用や職員テキストの作成など、受講率の向上のみならず、職員の理解や向上心を高めることにも注力している。地域連携室スタッフは急性期病院に出向いて受け入れ患者の情報収集を行うほか、個々の退院患者にフィードバックを行っており、地域連携パスのネットワーク構築にも主導的な役割を果たしている。病棟スタッフによる訪問リハビリテーションの提供等の取り組みから、質の高いリハビリテーション・ケアの継続に向けて業務改善に繋がる体制が構築されており、高く評価できる。自宅復帰困難な患者に対しては、地域の医療機関や介護福祉施設等の最新情報をまとめた表を活用し、常にリハビリテーション・ケアの継続を念頭に退院先を提案している。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

リハビリテーション科専門医を含む医師が各病棟に配置されており、専攻医の教育も行われている。新規治療の開発や論文執筆などの実績も豊富である。看護師と介護福祉士はペアで患者を担当し、それぞれの評価・計画を連動して作成している。患者の実生活等の背景やリハビリテーションの進捗を踏まえ、病棟生活の個別的な活動性向上に寄与しており、高く評価できる。各療法士は疾患別に標準化された評価に基づく目標設定の PDCA サイクルの中で、患者の生活機能向上のためのリハビリテーション治療をそれぞれの専門性による分担や協働を明確にして実施している。業務改善への取り組みや積極的な研究活動もあり、高く評価できる。

社会福祉士は各病棟に2名以上配置され、全患者の支援を行っている。患者・家族の理解度をチームに発信しながら、生活背景や希望も踏まえ、退院後に継続可能な生活支援の提供に寄与している。管理栄養士は標準的な栄養スクリーニング・評価に ICF の視点も加味しながら、リハビリテーション・ケアの進捗に応じた食事提供、患者・家族に対する栄養・調理指導、生活期機関への栄養情報提供などを適切に行っている。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日の合同評価、翌日のミニカンファレンス、1週間後の ICF チームカンファレンス、その後は2週間ごとのミニカンファレンスを実施してリハビリテーション・ケアを推進している。ミニカンファレンスシートを活用して、ICF の各ドメインにおける評価・課題・計画の個別的事項や全体像を把握し、多職種協働で2週間ごとの PDCA サイクルを回す仕組みが確立しており、高く評価できる。リハビリテーション計画の立案では、動画や図を用いるほか、言語聴覚士の支援等により患

者・家族の理解を高め、社会福祉士が理解度を評価する取り組みもあり、高く評価できる。個別リハビリテーション以外にも自律的に活動を高める取り組みがあり、高く評価できる。多職種チームと患者・家族が情報をタイムリーに共有し、共通の目標に向かってリハビリテーション・ケアを推進する仕組みが構築されており、高く評価できる。

定期的なミニカンファレンスに加えて、患者個別の病態や課題に応じて専門カンファレンスが設定され、具体的な課題抽出や問題解決に取り組んでいる。カンファレンスには薬剤師、歯科衛生士、音楽療法士等も課題に応じて参加し、双方向的な意見交換が行われている。ミニカンファレンスでは、議論すべき新たな課題に対し、多職種間で双方向性の議論が適切に展開されている。自宅復帰に向けて、入院早期からの生活環境や介護力を把握し、院内パスによる支援進捗率の表示や患者家族や生活期スタッフとの情報共有など、プロセス管理のための優れた取り組みがある。退院後の疾病管理や生活機能の維持・向上のため、各職種が作成したサマリーを退院後のフォロー機関に提供し、患者・家族に自律的取り組みを促すために介護方法や自主練習の動画を含む情報を提供している。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	I
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	I
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	II
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	II
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	II
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	II
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	I
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	I
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	I
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	I
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	I
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	II

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅱ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	I
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	I
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	I
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	I
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	I
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	I
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	I
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	I
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	I
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	II
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	I
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	II